

「ヤマトネイチャーサークル」は、株式会社ヤマトが行っている様々な自然環境への取り組みの総称です。

さらなる自然との共生を目指し、地域社会や自然環境への貢献を目的として「ヤマトネイチャーサークル」は幅広い情報発信をしています。

葉画家 群馬直美の

ヤマトビオトープ園の 葉っぱたち vol.38

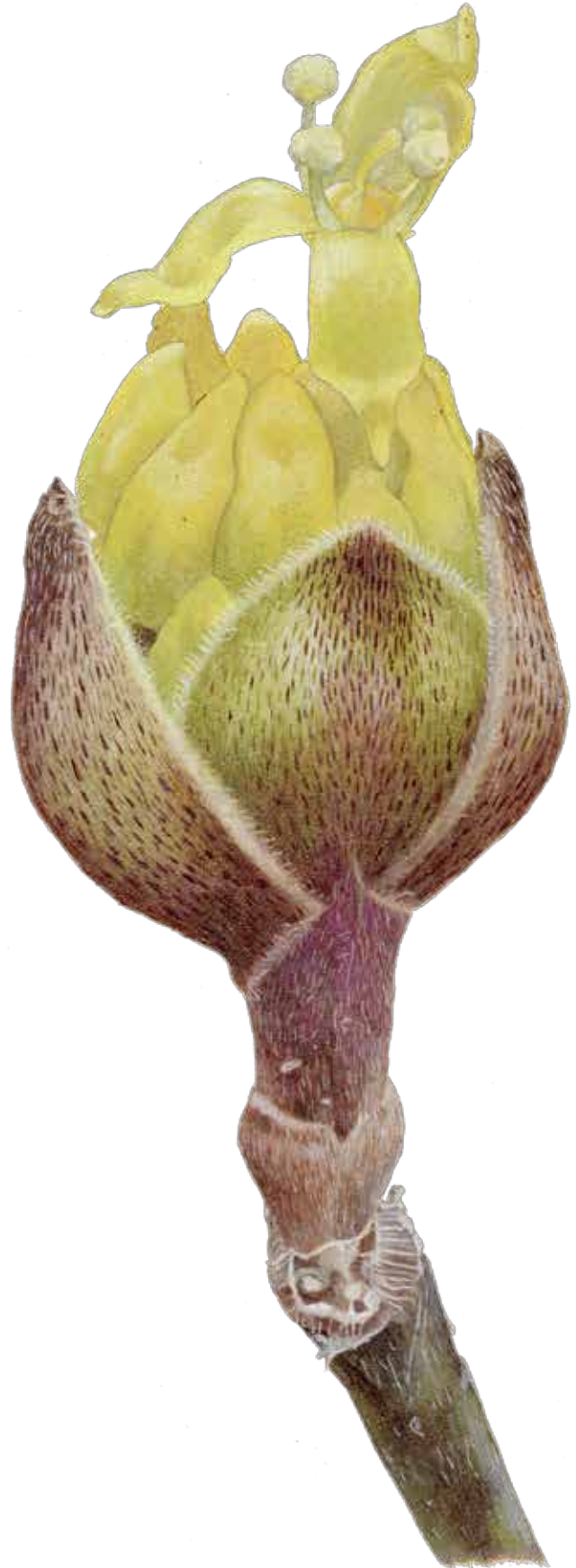
サンシュユの花芽

おいしそう！マンゴーみたいなつぼみたち。
葉っぱの落ちたあとには、山猫の顔！

ヤマトビオトープ園にて 2019.2.27

紙（アルシュ極細）/テンペラ

size:260mm×180mm ©Naomi Gumma



群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎生まれ。農大二高、東京造形大絵画科卒。大学在学中に新緑の美しさ、その生命力に癒され、葉っぱをテーマとする創作活動に入り葉画家となる。2015年6月ヤマトギャラリーホールにて個展開催、好評を博す。東京都立川市在住。

【<http://www.wood.jp/konoha/>】

ビオトープ園の小さきものたち 4 月

もっと、近くへ！（絵と写真と文・群馬直美）

葉画家・群馬直美がビオトープ園の小さきものたちを、とことん近づき描いた絵（表紙画）と写真で紹介します。

みんなの上に等しく春はやって来る〈サンシュユの花芽〉

私がサンシュユと出会ったのは、20年以上も前のこと。美しい秋色に染まった葉っぱたちを求め、アトリエ近くの大きな国営公園を彷徨っていたときのこと。手には、葉っぱ図鑑とチャック付きのビニール袋がたくさん。心にピンときた葉っぱを、採集日・場所・名前を書いて袋に入れていく。こうして集めた葉っぱをアトリエに籠って丹念に描く。

サンシュユの葉っぱは、神様工場の縫製ミスみたいだった。どうやっても横に流れる葉脈にひだがよってしまう。けれど、裏返すとうっすらとした桃色で、葉脈の脇に美しいゴールドの毛が密集していた。ちょっと発音しにくくて、聞き間違い？ と思わされる名前の響きも相まって、すぐにサンシュユが好きになった。

別名アキサンゴという名の由来でもある紅い実、ハルコガネバナの呼び名通りに枝いっぱいの黄金色の細かな花も描き、私のサンシュユを巡る旅は終わったと思っていた。

今日ビオトープ園で出会ったサンシュユの花の芽に、とことん近づき描いてみたら……。

花を包む苞は何やらとても毛むくじゃらでカワウソのよう。葉っぱの付いていた痕には、にやっと笑う怪しい山猫の顔！ ひしめき合った黄色いつばみはマンゴーのよう。動植物が一緒くたになったサンシュユの花芽。

地球上の生きとし生ける物たちの上に、等しく春は訪れる ♪ そんなサンシュユの歌声が、聞こえてきた。

SANSHUYU



人の顔みたいなサンシュユの樹皮 ビオトープ園にて